

平成30年度 第3回函南町立図書館協議会 議事録

- 1 日 時 平成31年3月14日(木) 15時～16時
- 2 会 場 函南町立図書館 2階 研修室
- 3 出 席 者 会 長 石田 和久 学識経験者
副会長 稲葉 優子 家庭教育活動者
委 員 齋藤 修 学校教育関係者
富永 和彦 学識経験者
今泉 良三 社会教育関係者
榎本 政夫 社会教育関係者
事務局 渡辺 正樹
牧野 満枝
- 4 公開・非公開 公 開
の 別
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容
- (1) 開会
 - (2) あいさつ 渡辺生涯学習課長
 - (3) 報告事項
 - (1) 平成30年度事業報告
 - ・平成30年度函南町立図書館利用状況について
 - ・平成30年度実施事業について
 - ・平成30年度蔵書点検結果について
 - (2) 読書記録ノートの活用状況について
 - (3) 「第三次函南町子どもの読書活動推進計画」について
 - (4) 協議事項
 - (1) 平成31年度事業計画について
 - (2) 蔵書構築計画の見直しについて
 - (3) その他図書館事業全般について

各委員から出されたご意見

議長 図書館利用状況、実施事業の報告があったが、たくさんの事業を行っていてありがたいと感じた。当協議会において出された意見については、事業の中に取り入れて実現・実施している。例えば、昨年度から始めた幼稚園親子見学会は、本年度保育園に拡大して実施している。また、前回会議で新規事業に取り入れて欲しいと話の出た、夜間を利用したおはなし会も年3回実施している。大変すばらしいと感じた。他に何かあるか。

委員 実施事業の中に、「文芸かなみ」の作成と作品展の開催とあったが、これは、かなみ知恵の和館5周年記念事業として、行ったのか。それとも継続する事業なのか。

事務局 本年度町制施行55周年、かなみ知恵の和館5周年だったため、事業名に冠としてつけた。「文芸かなみ」については、継続実施を考えている。昨年はエッセーのみの募集だったが、本年度はエッセー、俳句、川柳に募集範囲を広げて44点の作品の応募があった。少しずつ内容を充実させて毎年実施していく。

委員 近隣の三島・沼津などは、文芸冊子として作成し歴史もある。町においても清水町は、文芸作品を冊子としている。函南町も今後継続実施し、町民に少しずつ知ってもらい、文芸誌を通じて町民が交流し、文化を高めていってほしいと思う。「文芸かなみ」の冊子は、読んだが内容も素晴らしかった。

議長 事務局からも継続実施していくと話があった。少しずつ機会を捉えて、町民にPRしてもらえばよいと感ずる。

委員 幼稚園・保育園親子見学会についてのアンケート結果から、「今回の見学会に参加して楽しかった」と答えた数値が、保育園児が95%、幼稚園児が98%とあり、大変高い数値で驚いた。自由意見の中にも批判的な意見はほとんど見られず、大部分の親子が楽しんでいる様子がわかる。是非継続実施してもらいたい。

議長 継続した事業の実施をお願いしたい。

委員 読書記録ノートは、静岡県社会教育課の推進事業なのか。

事務局 読書記録ノートは、町単独事業である。潮木前教育長発案で、子どもたちが本を読むだけで終わらせずに、感想等を記録として残す。アウトプットの力をつけることを目的として、学校司書と図書館の連携により始めたものである。

委員 1月に実施した社会教育委員会研修において、図書館の学校連携事業についての話をしてもらった。他の市町からは、学校との連携事業を紹介してもらい大変良かったと感想をもらった。

議長 読書記録ノートについては、年度を終了してから様々な課題等出てくると思われる。また、取り上げて協議していってもらいたい。

事務局 来年度の読書記録ノートについては、新1年生のファイルを町の予算から図書館が一括購入し、各学校に配布する。中の用紙については、各学校にデータを配布してあるので、各学校に用意してもらおう。2年生以上は、読書記録ノートを持って進級となる。来年度も継続して実施していく。

議長 「第三次函南町子どもの読書活動推進計画」は、教育委員会において承認を受けてあるとのこと。今後の計画の進行管理と評価を図書館協議会で行っていくこととなる。皆さんよろしくをお願いしたい。

議長 平成31年度事業については、平成30年度に新規事業として始めた事業も含め、さらに充実させて継続実施していくということである。

委員 幼稚園・保育園図書館見学会については、保護者は自由参加なのか。

事務局 親子とはうたってはいるが、働いている保護者もいるので、自由参加としている。

議長 来年度は、西部保育園の開催日が参観日に設定されており、保護者にとっても参加しやすくなっていると感じた。

議長 図書館建設検討委員会当時に、当初の蔵書構築計画は立てられた。図書館が開館してからの実績値をみると、寄贈や除籍数等計画とは変わってきている。計画見直しの大きな点は、開架・閉架書庫収納能力13万点であることと、第6次総合計画のPDCAサイクルによる見直しによるものが大きい。今後も5年のサイクルで見直しを図っていきたいとのことである。

委員 これからのこととして、電子図書館という話がはずれ出てくる。それを検討した時に、図書の購入については電子図書を購入するのかわらっていくことと思う。近隣においても熱海市が昨年12月から、電子書籍を導入した。早速借りてみたところ、使い勝手が良い。当町の図書館は現在たくさんの事業を行っていて、手薄とは思いますが早い時期に導入を検討していかないと、乗り遅れてしまう。電子図書が充実してくれば、蔵書の物理的な問題も解消される。また、中・高校生の利用も手軽なタブレット、パソコン利用ということで、増加が見込まれる。ただ、通常の図書については県内図書館において、相互貸借を利用できるが、電子図書の貸し出しについては、在住・在勤者しか行っていない。残念である。電子図書は大変魅力的である。当町はいつ頃から検討していくのか。

事務局 図書館の蔵書については、書庫の収容能力に限りがあるので、物理的な問題が大きい。今後の計画の中では、電子書籍導入に向けた調査・研究も行っていく予定ではある。

議長 今後の計画の中には、電子書籍導入に向けた調査・研究もあるということである。実際の導入に向けては様々な課題があることと思うので、調査していってほしい。

委員 昨年度提案した、図書館水曜日夜の開館時間を利用したおはなし会は、静岡県読書アドバイザーにより本年度3回実施した。3回目は寒い時期だったこともあり、参加者は少なかったが、だんだん浸透していけばよいと思う。ボランティアは、みんな読み聞かせたい本を持っている。ボランティアとしても、来年度継続実施したい。

議長 本を紹介することも大切なことである。今後も頑張ってもらいたい。

委員 夜のおはなし会は、とても良い計画だと思う。開催場所がエントランスなので落ち着かない感じもする。奥の部屋で行うとゆっくり聞くことができるのではないかと感じた。

委員 まずは、水曜日夜のおはなし会をやっていることを知ってもらいたいということから、場所として図書館入り口のエントランスを選んだ。開催時間も45分と長いので、誰でも出入り自由にして興味を持ってもらいたく、エントランスを場所を選定した。周知されれば今後場所を相談し、検討していきたい。

委員 今年度から読書記録ノートについて学校現場で行っている。まだ1年目ということなので、課題や効果については、はっきりと出てきていないのが現状である。小中学生の活用状況数値を見たときに、総和として6万冊以上の記録をノートにしている事実は大きなことだと感じた。町の人口が3万数千人として、6万冊の読んだ本の記録をしたということは、大きな1歩だと感じた。

6万冊の中には、子どもたちの心に残る本や、大人になった時に振り返る本の記録として残っていくものが必ずあると思う。そのことが足掛かりとなり、町の文化の発展にもつながる。新規事業を始めた時には、おうおうとして効果をあせり、効果があった良い点を報告したくなるが、地道に取り組んでいくことが大切であると現場においても感じている。

電子図書の参入については、時代の流れであると感じる。学校現場では、スマホやSNS利用において、「ノーメディアデー」を作ろうと言われてきたが、最近では「メディアコントロール」が大切であると言われて始めた。利用時間や利用内容を考え、メディアコントロールをしながら上手な利用をして子どもたちが育っていけばよい。電子図書についても同様な考え方で、上手に利用する方法を考えていけばよい。メディアの状態でも書籍に触れることは、良いことである。今後は、書籍とメディア両方において利用されていくと感じる。今後の動向を見ていきたいと感じた。

議長 後押しをしていただく発言、ありがとうございます。

委員 読書記録ノートについては、のんびりやっていただければよいと感じた。無理やりに書かせるのではなく、ゆっくり伸ばしていただければよい。

委員 ラジオ深夜便で聞いた話ではあるが、宮崎県都城市図書館は、リニューアル後、図書館が地域のセンターとなり、住民が集まる場所となった。図書館というと、かつては静かにしなければいけない場所であった。都城市図書館は、静かなコーナーも設けてあるが、人が集まる場所としての図書館として発想を変えて取り組んでいるとのことであった。

委員 たくさんのことに手を広げていくことも良いが、近隣の図書館と比較してみても、函南町の図書館はサービスの内容がトップクラスと考えても良いというくらい充実している。職員、ボランティア等合わせてたくさんの人達が頑張っている。ボランティアの皆さんを大切に、一緒に図書館を充実させていっただけであればありがたいと感じている。

委員 カウンターにいるのは、職員なのかボランティアなのか。

事務局 カウンター勤務は職員と非常勤職員である。ボランティアの方がカウンターに入ることはない。

議長 協議事項については、全て承認された。たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。これで事務局にお返しする。

事務局 図書館協議会の委員任期が、本年度末をもって終了する。たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願ひしたい。

(5) 閉会